

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和8年度 第1回福津市スポーツ推進審議会
開催日時		令和8年7月14日（火） 18:30～20:00
開催場所		市役所 別館1階 大ホール
委員名		（1）出席委員 生田会長、中生副会長、麻生委員、増井委員、篠崎委員、安河内委員、的場委員、八波委員 欠席委員 内山委員、井上委員
所管課職員職氏名		教育部長 宮原 栄介 郷育推進課長 芹野 文彦 郷育推進課スポーツ文化振興係長 小松 可奈子 郷育推進課スポーツ文化振興係 佐野 菜々花
会 議	議 題 （内 容）	○福津市スポーツ推進計画アクションプランの成果 報告書について （1）2025（令和7）年度実績報告（案） （2）2026（令和8）年度計画（案） ○その他
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	0 名
	資料の名称	○福津市スポーツ推進計画アクションプラン 【2024年度～2028年度】（令和8年7月改定）案 ○アクションプラン成果報告書（2025）案 ○アクションプラン成果報告書（2026）案
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録 ☒ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録 記録内容の確認方法 会長による確認
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 教育部長挨拶

（宮原教育部長あいさつ）

2. 委嘱状交付

（委嘱状は、事前に机上に配布している物を確認してもらう。）

3. 委員自己紹介

（委員自己紹介）

4. 会長及び副会長専任

〈事務局〉

それでは、会長・副会長の選任に移らせていただく。

「福津市スポーツ推進審議会条例」第4条の規定により、審議会には会長を置き、委員の互選により選任することとなっている。

委員の皆さまの中で、会長に立候補される方や推薦したい方はいらっしゃるか。いらっしゃらなければ、事務局では、生田委員にお願いしたいと考えているが、いかがか。

〈委員〉

異議なし。

〈事務局〉

異議なしということで、生田委員にお願いする。

また、副会長を置くこととなっている。副会長を中生委員にお願いしたいと思っているが、いかがか。

〈委員〉

異議なし。

〈事務局〉

異議なしということで、中生委員にお願いする。

それでは、生田会長に一言ごあいさつをお願いする。

（会長あいさつ）

〈事務局〉

それでは、以降の議事進行は会長にお任せする。

5. 議事

〈会長〉

それでは、議事に移る。今回議事は2件。
議事（1）について事務局から説明をお願いする。

〈事務局〉

（「福津市スポーツ推進計画アクションプランの成果報告（2025）」案について説明）

〈会長〉

成果報告及び内部評価について提案いただいた。外部評価として、提案が妥当であるかご審議いただきたい。

次の議事が計画になるため、実績を踏まえて次の話にも繋がっていくよう、まず2025年を振り返り、この評価で良いか検討していきたい。

どの項目からでも、お気づきの点があれば言っていただく形で進めていく。

〈委員〉

基本方針3「スポーツを支えよう」の中の「1. ボランティアスタッフの人数」について、650人の計画に対し実績が620人で、内部評価Bとなっているが、私はこれは素晴らしい人数だと思う。むしろAで良いのではないかと思う。

全国大会の予選会として、プリンセス駅伝が福津・宗像で行われているが、ボランティアを620人集める労力や周知といったところを考えると、この人数は簡単に集まるものではないと思う。

つまり、私はAというより、特Aでも良いくらい素晴らしい人数だと思う。少し内部評価が厳しすぎるのではないかと思った。

〈会長〉

計画が大きいと思うが、なぜ650人となったのか。

〈委員〉

宗像はもっと多いのではないか。

〈事務局〉

これでも足りないぐらいと係員から報告があっている。

〈委員〉

私は毎年、プリンセス駅伝ボランティアにスポーツ推進委員として携わらせていただいている。

ボランティアは路地からコースに車や自転車、歩行者が出ないようにすることが主な役割である。

昨年度は、新しい企業からのボランティアの方が大勢見えられたと思うが、今までは一つの路地に対して1名で対応していたところが、スポーツ推

進委員もいながら、企業からのボランティアスタッフもあり、だぶついていたところが何ヶ所もあった。

それで、余っているにも関わらず計画が 650 人となっている。どこか足りない場所があるかもしれないが、路地に対して十分すぎるほどスタッフがいるところもあった。逆に、足りないところをお聞きしたい。

〈会長〉

相当な人数集まっているがそれでも足りないのか。

〈事務局〉

だぶついているところはあるが、宮司地区のスーパーなど、出口がたくさんあるところで、複数人配置しなければならないところはあるが、その辺の配分については、また今後考えていかなければならないところである。

そこは福間郷づくりの方々をお願いしているが、最終的にはいつも、「もっと人を配置して欲しい」「警備員を配置して欲しい」などの要望が出る場所である。

〈委員〉

実績値として、福津だけで 620 人なのか、宗像は含まないのか。

〈事務局〉

宗像は宗像での配置になっているため、福津だけで実績値が 620 人である。

〈事務局〉

宗像・福津で 500 人ずつを目標としている。

〈委員〉

福津市の場合は、津屋崎地区に農道が多いため、そこに全て立っていただきたいというのが基本である。そのため、人数がどうしても多く必要である。

やはり、ボランティアがいないところでは抜けてくる人がいる。それを止めようとして、今、人手がいるということである。まだ足りていない。

〈委員〉

レースの最後尾通過後、そこにいたボランティアを動かすことはできないのか。

〈委員〉

最後尾通過後は、その時点でボランティア業務終了となっている。

〈委員〉

早くに業務が終了したボランティアの方に移動してもらい、足りない箇所に補充するということはできないのか。

〈事務局〉

ボランティアでしていただいているため、そこまでの負担をかけることは難しい。

〈会長〉

長い距離であるため、路地がたくさんあり、運営上やはり多くボランティアの数が必要という仕組みか。

A にしたいのは山々だが、でもやはり計画達成していないではないかと言われる可能性がある。

〈委員〉

計画は、プリンセス駅伝と成人駅伝分けると、何名ずつになるのか。

〈事務局〉

目標値は、プリンセス駅伝 500 人と成人駅伝 150 人。

毎年参加してくれる方が多いが、それよりももっと新規に入ってきて欲しい。

〈会長〉

担い手が固定しているということか。ボランティアはどのように集めているのか。

〈事務局〉

オープンに募集しているが、最終的に昨年出ていただいた方に今年もお願いしている。

電子申請でできるようにしているため、QR コードで簡単に申し込めるようになっている。

〈会長〉

十分ではないが、努力していると思う。

〈委員〉

宗像市も苦勞しているが、ボランティアの年齢が上がってきているため、難しいというのが増えてきている。

〈会長〉

時期はいつだったか。

〈委員〉

プリンセス駅伝は 10 月後半の日曜日、成人駅伝は 1 月である。

〈会長〉

暑かったり寒かったりする中で、配置された場所に立たなければならないということか。

やはり、人数は計画ぐらい欲しいというところと、課題がいくつかある。メンバーが固定しつつあり、新規の方を今後増やしていきたいというところもあるため、委員からは十分頑張っていると評価はいただいたが、実際にはまだ足りない状況があるということで、Aであったら足りているのではないかと誤解を生む可能性があるため、外部評価はB。

〈委員〉

Bで良いと思う。今後はボランティアは減っていく可能性の方が高い。

〈会長〉

これで達成したというよりは、今後も頑張るということで、外部評価はBとする。

〈委員〉

「スポーツをしよう」の1、Facebook、Instagramとあるが、うちの協会を基本にしてはいけないのはわかるが、平均年齢が80に近い。最高齢会員が94歳で私が70、若い人でだいたい70くらいで平均年齢がとても高い。

FacebookやInstagramは、うちの協会の会員はしていないと思うが、やはりフォロワーなど年代は若い人か。

〈事務局〉

フォロワーの世代のは把握が難しいが、投稿は職員が積極的にするようにしている。

〈会長〉

投稿数も増えており、努力されていることがよくわかる。

〈委員〉

私はInstagramをやらないため、どうなのかと感じる。

〈会長〉

Facebookの方が年齢層が高いと思う。長くやっている人が多いため、それほど伸びない。若い人はあまりFacebookを使っていないようだが、一方で、Instagramはかなり若い層が利用している。

〈委員〉

うちの協会の会員は、平均年齢70代～90代のため、Instagramを利用している方はいない。

〈会長〉

FacebookとInstagramを両方管理しているというのは、非常に評価が高いと思う。

見ている層が違うため、どちらにも機能していくためには、両方維持するのが良いと思う。

Instagramは投稿も増え、とても良い。ストーリーズなど、43回アップされており、若い世代の人がよく見ていると思う。

〈委員〉

これは多い方なのか

〈会長〉

事務局が投稿を頑張っており、投稿は重要であると思われるため、良いと思う。

ストーリーズは43回もあげられており、高く評価できる。そういった努力の成果が出ており、非常に良いと評価している。また、ご指摘いただいたように、Instagramは若い層がアクセスしていると考えられるため、そういった意味では若い人たちへのアプローチになっているのではないかと

〈委員〉

A評価で良いのではないかと。

〈会長〉

そうですね。

これは発信が30回なのか。

〈事務局〉

はい。

〈会長〉

それは十分であり、発信を続けているとフォロワーが増えていくと考えられるため、来年度にも期待したい。

本項目はA評価が妥当であり、かつ、先ほどご指摘いただいた、若い層が情報を受け取っている可能性が高いため、今後も確認させていただきたいと思う。

事務局の提案の中にもあったが、基本方針1のところで、小・中学校におけるスポーツ活動支援において、小学校74%とのことであったが、中学校はスポーツコンテスト広場の取り組み自体がないことから、実施率自体には踏み込めていない。何か他にここに記載されていないが、そのような取り組みがあるのではないかと。中学校の実態と比較し、今後もこのような形で進めていくのか、何か数値化できるものがあるのかについては、気になる点である。

〈委員〉

数値化できるものはなかなかないのではと思うが、どの学年も体育の授業の最初の準備体操時に補強運動は必ず行っている。年に1回ある体力テストに向け、体力向上のため行っている。

〈会長〉

体力テストについては、数値化という点で、表が出たりしないのか。

〈委員〉

県平均と全国平均、また、学校平均も出る。

一学期中に体力テストを実施し、夏休みの終わり頃に結果が戻ってくるため、そこで評価を確認している。

なお、シャトルランについては暑い時期での実施はできないため、体育館で実施しているが、実施時期については考慮する必要がある。

福岡中学校は生徒数が1,400人いる中、全校生徒が体力テストを実施しなければならないため、どの学年がいつどの種目をするかの割り振りが大変だが何とか実施できている状況である。

〈委員〉

本来なら50m走は2人で走るが、6レーン程で走り、計測者も6人並んでタイムを測るなどしなければ、終わらない状況である。

ただ、なるべく良い記録が出るよう、部活動等で体力がつくため、小学校から上がってきてすぐはまだ体力がついていない生徒もいるため行わず、7月になると暑くなってしまうため、5月の終わりから6月にかけて体力テストを実施している。

〈会長〉

運動の二極化を防ぐことを目的として年間通じて実施しているのがスポーツコンテスト広場であり、その視点から考えると、体力テストを指標に入れることは、少し馴染まないかもしれない。

また、中学校においても必ず数値化しなければならないというわけではないと思う。

〈委員〉

以前も申し上げたが、小学校においても年度初めにしか体力テストを実施しないため、年間の取り組み指標として挙げることは、望ましくないと考えている。そのため、年間を通じて実施するスポーツコンテスト広場を指標としているところで、小学校においてはこの取り組みが最も適切であると思う。

〈会長〉

スポーツコンテスト広場は、体力テストによる評価という意味合いではないということか。

〈委員〉

運動習慣と体力向上というところである。この項目が「スポーツ活動支援」と書いてあることについて疑問があり、スポーツをしようという趣旨の取り組みであるため、「スポーツ活動の推進」といった表現になるのではないかと思う。

以前は、スポーツ推進委員が体力テストに来た回数や学校数が指標となっていた。

〈会長〉

場を提供しているという意味では、スポーツコンテスト広場のイメージだが、中学校においては部活動や体育の授業も含め、さまざまな場を提供しているが、それらを数値化することは少し馴染まない。数値化できるようなものはないと考える。

〈委員〉

現在の福津市内の中学校の状況があまりにも昔の状況と違う。

〈会長〉

体育館は1,500人入るのか。

〈委員〉

入らない。

〈会長〉

一堂に会することはないのか、今はオンラインで実施するのか。

〈委員〉

そうである。学年では400人程度のため、学年単位で入ることはある。

〈会長〉

それでもなかなかの人数である。

〈委員〉

体育館は2学年入るのが厳しい状態である。そのため、今の時期はグラウンド、体育館、武道場、水泳を空かない状態で回さなければ、体育の授業が終わらない状況である。

〈会長〉

体育の授業を組むだけでも大変な状況であり、そのような実態ということか。

〈委員〉

今はクラスマッチなどやっているのか。

〈委員〉

私が3、4年前にいた頃は外でできるハンドボールなどを実施していた。中学校ではドッチボールは行わないため、ハンドボールであれば外に4～5面コートを作ることができ、体育館と外で実施していたことがある。しかし、最

近はもう行われてないのではと思う。そうした部分については、体育祭で補っている。

〈会長〉

今回の取り組みのところでは、数値化できるような活動を見出しにくいかもしれない。

〈委員〉

スポーツであればとすれば、運動部や地域クラブに所属している人数を指標とすることを考えられる。部活動や地域クラブ、また習い事としてスポーツに取り組んでいる生徒もいる。

〈会長〉

その辺りをどのように把握するのか難しいところではあるが、将来的にはそういうのも検討していただければ。

文化部など、その辺りが分母に入ってくると一定数増える。

〈事務局〉

人数把握はできるものなのか。

〈委員〉

中学校の部活動に所属している生徒数は間違いなく把握できる。また、社会体育に参加している生徒についても把握は可能である。しかし、福津市外で活動している体操クラブやダンス、その辺りは個人から聞かなければわからない。中学校の部活動は、一つの部活に所属する生徒数が多いため、別のところで習っている生徒も多いと思われる。

〈会長〉

具体的な内容のデータについては、先ほどおっしゃったように、運動の二極化傾向に対して何かできないかということだったため、むしろ部活動やクラブチームに所属している小中学生は良いと思う。しかし、それ以外のスポーツの機会がない児童生徒にとっては、体育の準備運動で補強運動を実施が全員を対象に実施しており、運動に取り組む時間がない中学生にとっては良い取り組みだと思う。

それは全員を対象としており、100%実施されているため、指標として示しても良いと思う。運動の二極化への取り組みとしては良いと思う。

ただ、それもままならないほど人数が多く大変だと思う。時間割は組めているのか。

〈委員〉

なんとか組んでいる。ただし、雨が降ると外が使えないため、外を使用予定だった2クラスは保健の授業を教室でせざるを得ない状況となる。私も色々な学校を回ってきたが、福間中学校が一番早く保健の授業が終わる。

しかし、生徒たちは小学校から大人数の環境に慣れているため、不思議と抵抗がないようである。私自身は体育館に2クラスを入れて体育の授業を行うと狭いと感じるが、生徒たちはそのような感じは全くなく、慣れている。

〈会長〉

福津市の中学校の、ある意味特殊事情を伺うことができ、大変参考になった。一方で、数値化するのは少し難しさがあるように感じる。

運動の二極化傾向をどうにか打開していこうということで、この課題に取り組んでいるかと思うが、体育の授業において継続して4種の補強運動を取り組むことは、非常に子どもたちにとって良いと思った。ぜひ継続していただきたい。必ずしもここは数値化しなくて良いのではないかな。

〈事務局〉

スポーツコンテスト広場については、各クラスごとに集計し、このパーセンテージを出しているため、中学校各3校各クラスで出すか。

〈会長〉

他の中学校もやっているのか。

〈委員〉

実施しているところと実施していないところがある。

〈会長〉

その辺りは学校の実情もあるかと思う。

〈委員〉

福岡東中学校も生徒数は多いのか。

〈委員〉

福岡東中学校は、福岡中学校の1学年分ほどである。全校生徒が3分の1ほど。津屋崎中学校が少し多くなっている気がする。

〈会長〉

中学校は3つか。

〈委員〉

3つである。

〈事務局〉

4種の補強運動は、各中学校実施しているか再度確認する。

〈会長〉

かなり努力されている部分があるため、記載しないというのは良くないと思う。検討していただきたい。

ひとまず今回の実施内容については、小学校はスポーツコンテスト広場の取り組みを記載し、中学校については「その他の取り組みあり」という形で進めさせていただきたい。次年度以降、中学校で実施されている取り組みについても積極的に評価できるような形で進めていただけるとよいのではないかと思う。

その他いかがか。

〈委員〉

現在、中学校は日本一の人数と言われるほど生徒数が過密な状況。その中で、何か指針を持って形作る取り組みをしようとしていただいているところが、必要以上に中学校側も色々と頭を使っていると思う。現在実施しているところで、何か載せられるところがあれば、やはり中学校も頑張っていると思うため、取り上げていただきたい。

〈委員〉

先ほど駅伝のボランティアについて話があったが、津屋崎中学校にいた時、中学生を10人程度ボランティアとして派遣したことがある。中学生は車の交通整理などを担当することはできないため、給水所に配置してもらったところ、子どもたちも保護者も大変喜んでいて。ランナーよりも給水している子どもたちの写真を撮るほど好評であった。

福間中学校は規模が大きいため、声をかければ参加する生徒はいるのではないかと思う。担当できるボランティア内容は限られるが、そのような形で中学生の力も活用してもらえれば、ボランティアの人数確保に繋がるのではないかと思う。

〈委員〉

その辺りについては、スポーツ推進委員としても協力を仰ぎたいところは十分にある。しかし、結局子どもたちの移動の問題があり難しいと思う。

以前、花火大会の後の清掃事業を実施していた際に、ボランティアの子たちをどう移動させるのかという問題が起きた。

〈会長〉

現地集合現地解散というわけにはいかないのか。

〈委員〉

そうすると、やはり遠方に住んでいる子たちは参加しにくくなり、保護者に送迎をお願いする形になるため、参加できる人数にも差が出てくるという事実もあるが、中学校自体で参加させたいけれどどうかというところ。

〈会長〉

子どもたちにとってはトップランナーを直に見れるという、まさに、「スポーツを見よう」というところも含まれており、活性化するというところ。ぜひ今後検討していただきたい。

〈委員〉

逆に、中学校に対してボランティアスタッフとして来ませんかという声掛けを、子どもたち個人に向けて行ってはどうか。

現在、各学校ごとにボランティア活動を行うクラブができたりなどしており、津屋崎中学校にもある。色々な中学校であるのではないか。そのため、そのようなところに声掛けを行い、まとまってという形ではなくても、通常の配置場所に中学生が入るというのも良いのではないかと思う。現在、個人で参加しているボランティアの中には中学生はあまり入っていない状況。

〈事務局〉

流石に車を止めるのは難しいと思うため、プラカードを持つなど、そういったところには中学生も応援に来てくれたらありがたいと思う。

〈委員〉

私たちも車をどこに停めるかいつも迷うところのため、保護者の協力が得られ、送迎していただけるのであれば、プラカードを持つなど、お手伝いはしてもらえるのではないかと思う。

そのため、行政から中学生に来ませんかという呼びかけを、個人に行っても良いのではないか。

〈事務局〉

何ヶ所かに限られるため、何人募集という形になると思う。

〈会長〉

中学生を配置できるのであれば、重複している部分の人員を他に不足しているところに回すことができ、バランスよく配置できる可能性がある。

大変な課題ではあると思うが、これだけ多くの方がボランティアに参加されていることは素晴らしいと思うし、中学生の参加も加わることでなおさら取り組みの良さが発揮されると思う。ぜひ配置については少しずつ改善していただければありがたい。

〈委員〉

別件になるが、小学校・中学校の部活動の強化については、自分の中でも課題であり、挑戦したいと考えている。

私は元々古賀市の人間であり、福津市に来てまだ1年ほどであるが、福津市の小学校ではクラブ活動というのはされているのか。

古賀市では、4・5・6年生を対象に、授業の一環として、例えば月に1回など、決まった曜日にクラブ活動の日を設けており、私も参加していた。

小さい子どもたちであっても、楽しいという気持ちがあれば良いと思っていて。そこで汗を流し、活動後に「楽しかった」と聞けると、やってよかったと思う。

私の専門は卓球だが、もっと広めていきたいと思っている。行政の後押しがなければそういったことは厳しいため、目標を提案させていただきたい。

〈委員〉

小学校のクラブ活動は、中学校の部活動とは質が違い、特別活動の中にクラブ活動という枠があり、複数学年の興味を同一にする子どもたちが集まり活動するというものである。

それが運動系であったり、家庭科クラブで調理をしたり、理科の実験をしたり色々あるため、学校ごとに設置が異なる。そのため、必要に応じて地域の方々に教えていただく場合もあるというのが現状のため、そういった形で学校から要請があるかどうかというところ。必ずしも卓球をしているというわけではない。

〈委員〉

文科系や運動系をされているのか。

〈委員〉

はい。それは時間として設定しなければならないようになっている。

〈事務局〉

さまざまなメニューがあり、やはりドッジボールなどは人気があるとのことである。同じ種目を続けてするのではなく、今回はドッジボール、次回は映画鑑賞など、バラエティーに富んだクラブ活動が実施されているという印象である。

卓球を行う機会があり、スポーツ推進委員に声がかかったりした際は、出てもらえると良いと思う。

〈会長〉

福津市の実態を踏まえながら、ご議論いただいた。内部評価については、先ほど B から A に変更する意見もあったが、基本的には事務局からの提案通りで承認いただくということによろしいか。

また、次の計画に繋がるようなものも出てきたため、議事 1 については、成果報告の内部評価を事務局からの提案通り承認することとする。

次に、議事 2 へ移らせていただく。よろしいか。

それでは、事務局から 2026 年度の計画について説明をお願いします。

〈事務局〉

（「福津市スポーツ推進計画アクションプラン 2026（令和 8）年度計画」案について説明）

〈会長〉

赤字のところは、実際の状況に合わせて修正されたところであり、アクションプランの案、2026 年度計画に反映されている。

今からご議論いただきたいのは、先ほどの議論にもあったように、特に指標についてである。例えば、ボランティアの目標人数を 650 名とするのかに

については、先ほどの議論とも繋がる場所だが、基本的にはアクションプランの計画通りで進めてよいという提案になる。

その上で、先ほどの報告の議論も踏まえ、計画特に指標のところについて計画値がいかがかご議論いただきたい。基本的には、事務局の提案通りでよいという審議になる。

〈委員〉

赤字のところ、「スポーツで繋がろう」の事業名のところのD、市民ソフトバレーボール大会 19 チームでの開催とあるが、それは可能なのか。区対抗バレーボール大会と重複しているということはないのか。

〈委員〉

バレーボールとソフトバレーボールは競技そのものが違うため、選手の方にも両方されている方と、片方しかしていない方がいる。

〈委員〉

選手を募集して集まるものなのか。

〈委員〉

地域で集めている。

〈委員〉

福津市で、いくつかソフトバレーボールチームがあるが、住民票を福津市に置いている方がチームを作り、大会に参加している。

前は市民ソフトバレーボール大会ではなく、地区対抗ソフトバレーボール大会であったがその後、地区で集まりにくくなり、4人制であるが、福津市民であればだれでも参加できるようになっている。最近、日蔭野地区などがチームが多い。

女性チーム男性チームそれぞれあり、特に男性チームの参加が増えた。今年は30チームほどいった。

そのため、目標は20チームではなく、30チームくらいではないかと思う。

〈事務局〉

ここは事務局の方も今日お話を聞きたいと思っているところ。

〈委員〉

おそらくこれからさらに増えていくと思う。今年新生のチームが多く、そのチームはすごく楽しそうにされていたため、来年も結成するのではと思う。もっと増える可能性はある。

〈委員〉

これは少々問題があった。例年大体1チームごとに3試合はできていた。しかし、人数が増え、2試合しかできなかったということになってしまった。

また、会場の問題もある。ソフトバレーボール協会が、ここまで多くなるとは想定しておらず、一つの会場しか確保していなかった。そのため、来年は2ヶ所取るかといった検討をしていかなければならないが、今非常に同時に2ヶ所、3ヶ所の会場を押さえるというのは非常に難しい。そのようなことも加味し、津屋崎中学校と津屋崎体育センターを同時に使うことができれば、うまくいくだろうが、上西郷小学校と津屋崎中学校など、バラバラになってしまうと大会が非常にやりにくいという問題があるため、検討しなければならないという話はしている。これ以上参加チームが増えた場合、1チーム1試合で終わってしまうため、それは楽しくないだろうと思う。

〈事務局〉

やはり、組み方の限界はあると思う。受付のチームの上限は、300歳ソフトボール大会でも決まっている。そのような会場に合った設定は必要と思われる。

〈委員〉

今年に限りと思うが、今年は6月の最後の日曜日に開催されたが、隣の中学校の体育館はその日使われていなかったという情報をいただいた。責任者の方が早く中学校の教頭先生に交渉しておけばよかったと、後悔されていた。

大体毎年6月最後の日曜日開催と決まっているのだが、毎年中学校の会場を早く押さえることができれば良いと思う。

中学校は4コートほどできるか、場合によっては6コート程取ることはできないか。

〈委員〉

毎年、上西郷小学校で実施していた。しかし、今年はドッチボールの練習で使えないということで、粘り強く交渉していたが、直前になって会場が確保できなくなってはいけないということで、津屋崎体育センターを押さえたという状況があった。

当時は、まだ中学校は行事予定が出ていなかったこともあり、そのタイミングでもう体育センターを押さえたという経緯があるため、今後は年度初めから会場確保に向けて動いていく必要がある。

確かに津屋崎中学校は空いていた。使用できなかったことを残念に思う。

〈会長〉

チーム数が増えると、会場確保の課題も出てくるということか。

〈委員〉

増えていくことは非常に良いことではあるため、ぜひ、2会場でできるような体制ができれば一番良いと思う。

中学校も部活動など、運動の活動が非常に増えている。小学校の体育館も相当使われている状況がある。

〈会長〉

実績については、これまでの実績を追記していく形となる。Cのバレーボールより、より多くの方が取り組めるということで、今後はこの推進審議会としても積極的に取り組んで欲しいという思いを込め、目標値 25 チームを仮に設定し、関係部署へ確認していただきたい。

〈委員〉

本会としては、目標値を上げる方向でよい。

〈会長〉

2026 年度から追加ということで、先ほども言われたように、ソフトバレーボールというのは、様々な方が参加できるということである。そのため、今後は積極的に審議会としてもサポートしていけるよう、実態を確認しながら進めていきたい。

今回の審議会における目標値については、20 チームからで良いのではないかなと思う。

今後、情報は修正や追記があっても良いと思う。

〈委員〉

いずれ区対抗バレーボール大会の参加人数が減り、ソフトバレーボールの参加人数が増える構図が考えられる。

〈会長〉

そのような点から、今回追加したことによりそのような変化にも対応できるようにしたため、十分評価できるのではないかなと思う。ぜひ目標値超えて会場確保し、実施に向けてご準備いただきたいと思う。

関係部署の皆様にもよろしくお伝えいただきたい。運営する側には大変な部分も多いと思うため、ぜひご協力いただきたい。

Dについては、市民ソフトバレーボール大会の目標値を参加チーム 20 チームからスタートするという事で進めていただきたい。

その他、いかがか。

〈委員〉

300 歳ソフトボールの目標値 64 チームは実質的な数字か。昨年度実績は 48 である。

私は現役で出ているが、高齢化が進んでいるところは、参加しなくなっている。自分たち世代が出なくなれば、自分の自治会も出られなくなってしまう。

昨年度実績が 48 チームで、目標値 64 チームという数字を継続して出し続けるのことは現実的な数なのか。

〈委員〉

グラウンドの数を 7 会場としたため、これは修正した方が良いと思う。

〈事務局〉

目標値 56 チームとするか。

〈委員〉

それ以上の数申し込みがあった場合、参加を制限するというのが、ソフトボールの役員会で決まっている。

〈会長〉

今は 8 会場あるのか。

〈事務局〉

作ろうと思えば 8 会場できるが、きついなというところ。もう 7 会場に絞ってしまえば最大 56 チームということになる。

〈会長〉

2025 年度は 48 チームであったのか。

〈委員〉

最近の参加チーム数は 50 チーム前後である。

〈委員〉

内野だけで、出場選手の合計年齢が 300 歳超えることもある。

〈事務局〉

400 歳になっていることが多い。

〈委員〉

今年は審判を、審判団やソフトボール協会に見てもらうのではなく、相互審判、出たチームが相互に審判する形となっている。

〈会長〉

審判団も確保が難しいような状況となっているということか。

〈委員〉

審判団も高齢化しており、人数が集めきれないと言われている。大体 14～15 人必要だが、人数の確保が難しいとのことで相互審判でやろうということになっている。

〈会長〉

これは実態に合った数値に修正するように。

〈事務局〉

承知した。

〈会長〉

できるだけ長く、チームに存続してもらえる方向で。ここは実態に合わせるが、できるだけ参加を推奨していけるように。56 チーム上限で修正させていただく。

〈委員〉

ソフトボールのルールも柔軟く変えていっている。レクリエーションに近い。そうすれば、高齢者でも十分できるようになると思う。

〈会長〉

長く続けている方が多い。これもしっかり受け皿になっていると思う。

〈会長〉

実態に合わせて、目標 56 チームとさせていただく。

その他の指標のところは、提案の通りの目標値で進めさせていただければと思う。

先ほど修正があった 2 ヶ所、B が 20 チーム目標で、300 歳ソフトボール大会は 56 チーム目標ということで確認させていただいた。

その他、今年度は目標をしっかり達成しているところもあり、大変な部分も多いと思うが、色々なところでご協力いただき、多くの良い評価を報告いただいた。

2026 年度についても数値・内容ともにさらに充実することを期待している。

議事は以上となる。

6. その他

(事務局から次年度開催予定等の連絡事項)

(副会長挨拶)